

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

公正会 8名

西川正義、馬場和子、安澤勝、安居正倫、奥野嘉己、長崎任男、和田一繁、小菅雅至

(2) 実施日：平成 29 年 11 月 16 日（木）・17 日（金）

【1. 調査の目的】

本市における現状・課題

選定地 1：「ここ滋賀」

東京・日本橋に設置した情報発信拠点「ここ滋賀」が平成 29 年 10 月にオープンした。滋賀県産のおすすめ商品や、地酒が楽しめるバー、テイクアウトコーナー、レストラン、イベントなどを通して、日本橋で滋賀を楽しむことができる。滋賀県の食・品・工芸品の販売など滋賀の魅力が詰まっている施設であり彦根市にとっても重要な拠点であるので現状を視察する。

選定地 2：横浜市

横浜市は、ビックデータ・オープンデータを全国にさきがけて活用し経済を活性化することに成功している市である。これから IT 活用を進めていく本市にも参考になることが多くあると思われる。その現状を視察する。

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

選定地 1：情報発信拠点「ここ滋賀」の現状はどのようなものか。

選定地 2：横浜市のオープンデータ活用はどのようなものか。

【3. 調査結果】

(1) 内容

選定地 1：

「ここ滋賀」のプレス向けオープンが 10 月 27 日に行われ、報道関係 53 社の取材を受け新聞掲載だけでなくテレビ放送でも紹介された。翌日 28 日には内覧会が開催され、滋賀県の関係者・関係企業等約 700 名の参加があり盛況であった。開業日の 29 日（日）には台風による荒天にもかかわらず多くの人であふれ長蛇の列ができた。オープン記念イベントでは滋賀県出身のアーティストによるライブステージや地酒、近江の茶が振る舞われるなど活況を呈した。「ここ滋賀」の内装整備については、レストランのテーブル椅子、照明、自動ドアに至るまで滋賀県内の企業により施工されている。10 月末日迄で来店者数は 1 万人を超え、売上もマーケットで約 340 万円、レストランで約 52 万円をあげている。取扱商品については、雑貨が 379 商品と最も多く、次いで加工食品が 212 商品と販売されている。今後事業者向け説明会を行い新たな商品の公募をおこなっていく計画で

ある。また「ここ滋賀」にいけば毎日違う魅力に出会えるような、様々な切り口での企画催事を実施していく予定である。そして県内業者や生産者、各市町、団体主催の企画催事を中心に、地域のヒト、コト、モノや四季など様々な角度から滋賀を切り出して演出していく計画である。

選定地 2 :

「オープンデータ」とは、行政が保有する公共データを二次利用できる形で開放し、それらのデータを民間企業や団体が編集・加工することで、まちづくりやビジネスに活かしていく取組のことである。横浜市としてオープンデータを推進する意義として、次のことがあげられる。行政の透明性、信頼性の向上；公的データの共有及び協働による地域課題の解決；経済の活性化、行政の効率化・高度化。港北区では、行政情報のオープンデータ化による、協働で進めるまちづくりに取り組んでいる。福祉やまちづくり、環境などの課題を乗り越えて横浜市を発展させていくためには、民間と行政が連携を深め、それぞれが持つ知恵と力を結集させていくオープンイノベーションの理念が不可欠である。そのような考えのもと、横浜市は行政が保有する公的データを市民と共有し、活用してもらうことで、さまざまな地域課題の解決に取り組んでいこうと、2013年ごろからオープンデータ化を進めてきた。ICTの活用により横浜市の政策課題をわかりやすく提示し、民間と行政がオープンデータに基づき、アクションを興すためのプラットフォームを構築する。そして民間と行政の対話の場の充実や、横浜市が保有する情報のオープンデータ化、連携のための仕組みの活用・検討などを積極的に進め、民間の提案やアイデアを引き出していくことにより、これからの横浜を創造していく。

(2) 考察

選定地 1 :

現在「ここ滋賀」は彦根市関係の出店が少なからずあるという状況である。今後新たな商品も公募していく予定であり、彦根市内にも様々な良い商品があるので、出店していくべきであると思われる。また多くの催事に彦根市内の団体が参画することで、彦根市の更なるイメージの向上が期待される場所である。

選定地 2 :

彦根市ではITの基盤ができたところでまだオープンデータの活用はほとんどされていない。これからITの積極的な活用、特にオープンデータやビックデータの活用がとても重要になってくる。経済活用や観光関係だけでなく、福祉の分野でも重要になってくるので、彦根市もいち早くITの積極的な活用を進めていくべきである。

政務活動費活動報告（研修）

(1) 研修名：

(2) 参加者：

(3) 日時・場所：

【1. 研修目的】

【2. 結果報告】

(1) 内容

(2) 考察